

# 病院案内



社会医療法人 柏葉会

柏葉脳神経外科病院

KASHIWABA NEUROSURGICAL HOSPITAL

救急対応 24時間

# 柏葉脳神経外科病院は

“でもできる”から

“だからできる”病院に



拡大リニューアルした  
救急外来処置室



社会医療法人柏葉会  
理事長  
柏葉脳神経外科病院  
院長

寺坂 俊介

脳神経外科

日本脳神経外科学会専門医  
医学博士

## 法人理念

# 信頼と尊敬の医療



2020年3月に社会医療法人の認可を受け、ロゴを刷新しました。

緑色の部分で柏の葉と脳を、水色の三日月で信頼を、紫の三日月で尊敬を表現しました。真ん中の白い丸部分は地球です。世界標準の医療を目指していることを伝えています。ロゴ全体は柏葉会の頭文字Hで、活力を取り戻した人のパワーを重ねています。

3年間に及んだコロナ禍の医療体制が徐々に終息に向かっています。多くのものを失い、また多くのものを得た3年間だったと思っています。敢えて得たものを書きますと、この3年間に病院のDXは大幅に進歩しました。クラスターやワクチン接種の時には職種を超えての連携が一気に進みました。様々な社会貢献をしたことによって職員は職業人として大きく成長し、柏葉会の社会的な価値も高まったと思っています。

コロナ禍はある意味有事でありました。有事には職員が同じ方向を向き、一致団結して困難を乗り越えることができます。しかし今後難しいのは平時でもこの3年間で進めた様な変革を継続できるか否かだと思っています。

ポストコロナの時代に持続可能な病院であるために柏葉脳神経外科病院にはレジリエンス・イノベーション・インクルーシブが必要だと考えています。治療を受ける患者さんの回復力(レジリエンス)を引き出すような病院、患者さんに還元できる新規治療(イノベーション)を発信できる病院、そして障害者や多様な国籍の職員が共存(インクルーシブ)できるような病院を目指していきたいと思っています。

## 診療担当医師 紹介



集束超音波治療センター長

**小林 浩之**

脳神経外科



副院長・高度脳血管病センター長

**中山 若樹**

脳神経外科



副院長・診療部長

**丸一 勝彦**

脳神経外科

### 診療科目

- 脳神経外科
- 脳神経内科
- 循環器内科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科

### 専門外来

- 脳血管病外来
- 脳血管内治療外来
- FUS（集束超音波）外来



先端医療研究センター長

**松澤 等**

脳神経外科



医長

**牛越 聡**

脳神経外科



脳血管内治療センター長

**菊地 統**

脳神経外科



医員

**品田 伸一郎**

脳神経外科



医員

**村木 岳史**

脳神経外科



医員

**岡本 迪成**

脳神経外科



集束超音波治療副センター長

**成田 拓人**

脳神経外科



医員

**山口 日出志**

脳神経外科



医長

**宮岸 隆司**

脳神経内科



かしわば記念クリニック副院長

**吉田 一人**

脳神経内科



リハビリテーション部長

**木村 憲仁**

リハビリテーション部



医長

**瀧田 恒一**

麻酔科



医員

**西村 雅夫**

麻酔科



医長

**水島 航**

循環器内科

# 専門医による正確な診断と適切な治療を提供し

## 主な対象疾患

### 脳血管病・脳卒中

主幹動脈の狭窄や閉塞、脳動脈瘤や脳動静脈奇形などの脳血管病は、重篤な脳卒中につながる重要な疾患です。これらを専門的に診る場として、脳血管病外来を開設しています。

**【脳動脈瘤・脳動静脈奇形】** 開頭手術チームと血管内治療チームが合同で最善の治療選択肢を検討し、提示します。開頭手術では精緻な技術を礎に、ITやAIを利用した術前術中の画像解析などの先端テクノロジーを駆使し、質の高い治療を提供するとともに、高難度の病変にも対応しています。

**【頸動脈狭窄・脳血管閉塞症】** 頸動脈狭窄に対しては内膜剥離術や血管内ステント留置などを行い、頸動脈を正常な状態にのみがえられます。脳血管閉塞症に対しては脳血管バイパス手術を施行し、正常な脳循環を取り戻します。

**【脳卒中】** 専門チームで24時間365日対応しており、「脳梗塞」においては薬物治療やリハビリテーションはもちろん、急性動脈閉塞に対するt-PA製剤を使った血栓溶解療法やカテーテルによる血栓回収術などの緊急処置も行います。「脳出血」や「くも膜下出血」に対する緊急開頭手術や血管内治療は、常に万全の体制で、シームレスに妥協のない治療を展開しています。

### 脳腫瘍

脳腫瘍とは、脳の表面や脳組織にできる腫瘍の総称です。腫瘍ができていても症状が出ないこともあります。進行すると起床時の頭痛や嘔吐などが起こることがあります。早期発見のため、脳腫瘍の症状に気付いたらMRI検査を受けることが重要です。発生した脳腫瘍の種類によって、治療法は異なります。主に手術が必要となる腫瘍もありますし、手術・放射線治療・抗がん剤治療を同じような比重で行う腫瘍もあります。当院で可能な治療は、手術と一部の抗がん剤治療です。

### もの忘れ、認知症

もの忘れの原因には、治療が難しいアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症などと、治療が可能な多発性脳梗塞や慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症などの疾患があります。当院では、認知症専門医の診察に加え画像診断を実施し、精度の高い診断を行っています。運転が可能かどうかの補助診断としてドライブシミュレーターも使用しています。

## 検査機器



80列 CT 装置



MRI 装置 (サイレント 3.0T×1台、1.5T×2台)



血管撮影装置 (DSA)



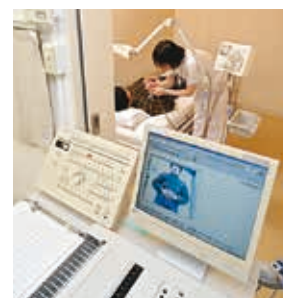
FUSの超音波発生装置



核医学検査装置 (脳血流 SPECT、Dat Scan など)



カラー超音波診断装置



ビデオ脳波モニタリング装置



### 頭痛（慢性頭痛、片頭痛、緊張型頭痛など）

脳神経外科を受診するきっかけの中で最も多い症状です。脳に重大な疾患が隠れていないかをMRI検査などで見極めた後に頭痛の種類に合わせた治療を行います。慢性頭痛や緊張型頭痛には筋弛緩薬を中心とした薬物治療と運動の指導をします。現在、片頭痛にはさまざまな薬がありますが、原因の一つとされている物質CGRPをブロックする月1回の注射を当院では採用しています。

### 三叉神経痛、片側顔面けいれん

三叉神経痛は片側顔面に突然生じる鋭い発作性の痛みです。約80%に疼痛発作が誘発されます。治療は薬物治療が主体となりますが、難治性の場合には手術を行います。

片側顔面けいれんは顔面神経の被刺激性亢進によって顔の筋肉が発作性、反復性かつ不随意に収縮する病気です。誘発検査やMRI検査でけいれんの原因を調べます。治療は薬物治療、ボトックス治療、手術治療ですが、当院ではいずれの治療も可能です。

### パーキンソン病、本態性振戦

ふるえを来す疾患を正確に鑑別し、適切な治療を行っています。薬物療法、リハビリテーション療法に加え、ふるえが強い症例には「MRガイド下集束超音波治療（FUS）」も行っています。他にも、末梢神経・筋疾患、神経免疫疾患（多発性硬化症、重症筋無力症）、神経変性疾患（脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病）の治療に取り組んでいます。

### 循環器疾患

脳血管障害の再発を予防するために、動脈硬化や高血圧、脂質異常症などの循環器疾患を治療します。睡眠時無呼吸症候群の治療も再発リスクの軽減につながることから、積極的に取り組んでいます。

## 手術支援機器



PACS 医療用画像管理システム



手術用顕微鏡



脳神経機能検査装置



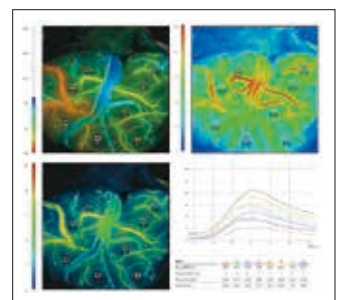
マイクロサージェリー



手術ナビゲーションシステム



麻酔機器



顕微鏡下蛍光造影血流解析

# 救急から 在宅までを支える 脳神経外科看護

## 看護部の理念

## その人らしさの探求

「急性期」「回復期リハビリテーション」各病棟で、  
患者さんの病態に応じた脳神経外科領域の専門看護を提供しています。  
適切かつ迅速な看護アプローチによって  
一人一人の患者さんの幸せとスムーズな社会復帰を目指します。

### 確かな知識と技術で 患者さんの思いを形に



看護部長 小林 利絵子

各病棟では、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が一つのチームとなり、患者さんに最良の医療と看護を提供できるよう努めています。発病の時期から回復までの患者さんの心と体を支え、さらに退院後もご自宅でその人らしく生活ができるように、確かな知識と技術で患者さん一人一人の思いに寄り添った看護を展開しています。

### 病床数

許可病床  
**144**床

A館3階病棟 (50床) 7:1 入院基本料  
A館2階病棟 (50床) 7:1 入院基本料  
B館2階病棟 (44床) 13:1 入院基本料

### 看護単位

**5**看護単位

病棟3、外来1、手術室

### 機能別体制

- 外来
- 脳卒中ケアユニット病床 ..... 15床
- 一般病床 ..... 67床
- 地域包括ケア病床 ..... 18床
- 回復期リハビリテーション病床 ..... 44床

### 看護要員

非常勤、パート職員含む

**170**人

(2023年10月1日現在)



# 脳卒中などの後遺症に特化した シームレスリハビリテーションで 身体機能・生活機能の回復を 目指します



「患者さんの気持ちに寄り添い、信頼、尊敬の意を込めて、質の高いリハビリテーションを行います」という理念のもとに、脳の様々な疾患に対し急性期から維持期までのリハビリテーションを提供しています。特に急性期・回復期は、365日途切れないシームレスリハビリテーションを提供し、患者さんの身体機能・生活機能の回復につなげています。

急性期から維持期までのリハビリテーションを  
4つの専門職がサポートします



作業療法士



理学療法士



言語聴覚士



音楽療法士

## ロボット技術などを応用した装置を使う リハビリテーション

### ウエルウォーク Welwalk

#### 歩行の改善と訓練量の確保を期待するアシストロボット

歩行練習アシストロボット「ウエルウォーク」は、免荷装置による急性期早期からの歩行訓練量の確保と、動作分析機能による訓練プログラムのサポートが可能です。足の麻痺で歩行が不自由になった患者さんが、自然な歩行を習得できるようリハビリテーション初期から質・量ともに支援します。



### ミューロソリューション MURO Solution

#### 脳と神経に働きかける低周波治療器

脳卒中の患者さんの上肢不良肢位（手関節屈曲、手指握りこみ）には、医療機器「ミューロソリューション」を使い脳細胞のネットワークを再構築し、麻痺した手を再び動かすことを目指します。



### ウォークエイド WalkAide

#### 歩行の改善を期待する 神経筋電気刺激装置

歩行神経筋電気刺激装置「ウォークエイド」は、脳卒中などの後遺症で歩行が不自由になった患者さんの急性期・回復期リハビリテーションに有効です。安心して踏み出せる歩行を目指します。



### バイタルスティム VitalStim

#### 嚥下の評価ができる低周波治療器

脳卒中などの後遺症で嚥下機能に低下を認めた患者に対して、医療機器「バイタルスティム」を使い、頸部への電気刺激により嚥下筋力の機能向上を図り、安全に食べられることを目指します。



社会医療法人 柏葉会

# 柏葉脳神経外科病院

〒062-8513 札幌市豊平区月寒東1条15丁目7-20

代表電話 **011-851-2333**

代表FAX **011-851-2131**

患者支援センター (A館1階) 電話 **011-851-2370** FAX **011-851-9466**

標榜科目 | 脳神経外科・脳神経内科・循環器内科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科 (瀧田 恒一)

病床数 | 許可病床 (一般: 67床、SCU: 15床、地域包括ケア病床: 18床、回復期リハビリテーション: 44床) 144床

駐車場 | 55台

関連施設	法人本部	電話 <b>011-850-5033</b>
	かしわば記念クリニック	電話 <b>011-851-2580</b>
	白石中央病院	電話 <b>011-861-8171</b>
	訪問看護ステーションふくずみ	電話 <b>011-855-2933</b>
	ケアプランセンターかしわば	電話 <b>011-855-3031</b>
	デイケアセンター笑るむ	電話 <b>011-850-5041</b>



救急指定病院

救急患者さんは、診療日・診療時間を問わず  
24時間365日診療しております

法人職員数 | 495人

(2023年10月1日現在)

## 沿革

1971年4月19日  
柏葉脳神経外科医院開院

1975年10月  
柏葉脳神経外科病院となる

2020年3月1日  
特定医療法人から社会医療法人への移行に伴い  
「社会医療法人 柏葉会」に名称変更

2021年10月20日  
かしわば記念クリニック開院

2022年1月17日  
かしわばワクチンクリニック開院

2023年7月3日  
医療法人 白石中央病院と合併

## 診療のご案内

診療時間 月・火・木 9:00~17:00 水・金 9:00~12:00

受付 月・火・木 8:30~11:30 / 13:00~16:00  
水・金 8:30~11:30

休診日 土・日・祝・年末年始(12月30日~1月3日)

### 外来診療

脳神経外科

脳神経内科

循環器内科 [予約制]

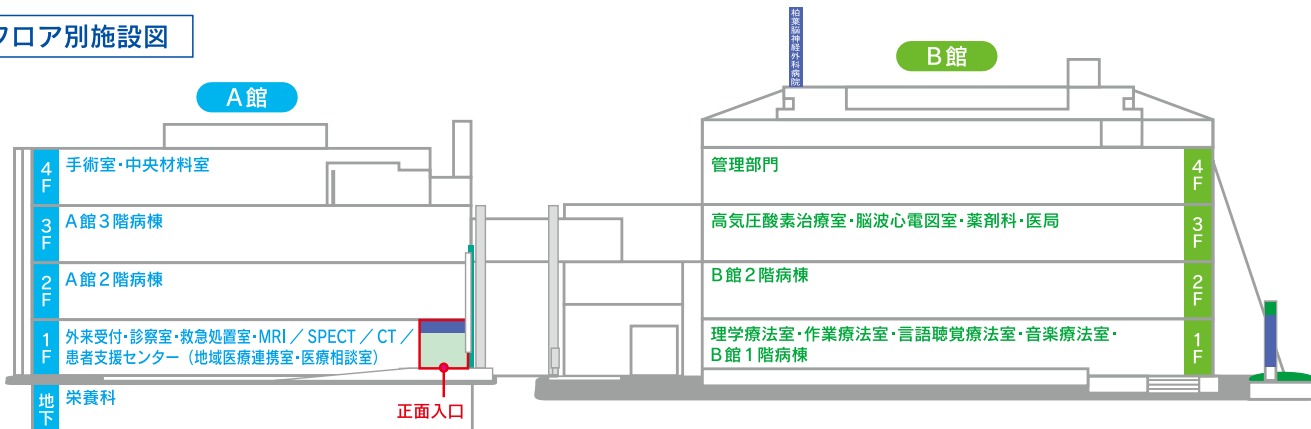
### 専門外来 [予約制]

脳血管病外来

FUS (集束超音波) 外来

予約電話番号 ☎ **011-851-2370** 予約受付時間 月~金 9:00~17:00

## フロア別施設図



## 主な施設認定

- ◆ 日本脳卒中学会一次脳卒中センター (PSC) コア
- ◆ 日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
- ◆ 日本脳卒中学会認定研修教育病院

## 主な設備

- MRI装置 (磁気共鳴断層撮影装置 サイレント 3.0T×1台、1.5T×2台)
- 80列CT装置
- FUSの超音波発生装置
- カラー超音波診断装置
- 高気圧酸素治療装置
- 音楽療法室
- 血管撮影装置 (DSA)
- 核医学検査装置 (脳血流SPECT、Dat Scanなど)
- 手術ナビゲーションシステム
- 理学療法室
- ADL室
- 神経筋電気刺激装置
- 作業療法室
- 言語聴覚療法室
- ドライブシミュレーター